


## ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	<p>保育科 准教授</p> <p>竹中麻美子 (たけなか まみこ)</p> <p>TAKENAKA Mamiko</p>
所属	保 育 科
学位	学士(教養)(国際基督教大学)
資格・免許	—
学歴・職歴	<p>&lt;学歴&gt;</p> <p>1992年 3月 国際基督教大学教養学部語学科 卒業 (学士(教養))</p> <p>1992年 10月～1993年 7月 ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ ドラマ・アンド・シアターアーツ専攻</p> <p>1995年 9月～1996年 6月 ロンドン大学ロイヤル・ホロウェイ・カレッジ ドラマ、シアター・アンド・メディア・アーツ 専攻</p> <p>&lt;職歴&gt;</p> <p>1996年 12月 株式会社エフエム甲府 制作部 (2001年 3月まで)</p> <p>2002年 4月 山梨学院短期大学 兼任講師 (2007年 3月まで)</p> <p>2004年 9月 山梨学院短期大学 事務局課員 (2009年 3月まで)</p> <p>2009年 4月 山梨学院短期大学保育科 専任講師 (2020年 3月まで)</p> <p>2021年 4月 山梨学院短期大学保育科 准教授 (現在に至る)</p>
担当科目	演劇入門 異文化コミュニケーション 外国語(教職) 英語A 英語B 基礎演習 卒業演習Ⅰ 卒業演習Ⅱ
専門分野	舞台芸術 英語コミュニケーション
現在の研究テーマ	異文化コミュニケーションへの興味を深め、外国語学習の意欲を高めるために役立つ学習素材の検討と授業展開の工夫
競争的資金等の研究課題	該当なし
所属学会	日本保育学会 日本保育者養成教育学会 日本英語圏児童文学会 日本シェイクスピア協会 Society for Emblem Studies 日本支部
メッセージ	学生生活は自分のやりたい研究、サークル活動、いろいろなことに思いっきりチャレンジできる時です。失敗を恐れず、自分自身の可能性をたくさん見つけてください。皆さんのさまざまな挑戦を心からサポートし、応援しています。

教育	
2021年4月～2022年3月	
教育方針	様々な価値観、文化的背景を持つ人とのかかわりの中で成長し、グローバル社会で生き抜く力を持つ若者の養成
授業	<p>授業の工夫</p> <p>&lt;外国語（教職）&gt;</p> <p>英語を使ってコミュニケーションをとる機会を増やすため、プレゼンテーションや参加型の学びの機会を多く取り入れた。英語絵本の朗読や早口言葉、手遊び、歌遊びなど、楽しみながら英語に触れる教材を多く活用した。</p> <p>英語特有の発音を身に着けるため、l と r や th、v など日本語にはない音の発音指導に舌を擬人化したキャラクターを取り入れたユニークな指導を試みた。</p> <p>&lt;英語A&gt;</p> <p>英語が苦手、英語は嫌い、という意識を変革することに力を入れている。内容を知りたい、使って楽しい、相手に伝わって面白い、という経験を積むことで、苦手意識を克服し、表現手段としての英語力をつけることを目指している。英語の歌をテキストとして活用することで、等身大の若者の感情を表現する語彙や文化的な違いをより分かりやすく理解できるよう工夫した。</p> <p>&lt;英語B&gt;</p> <p>食物栄養科、保育科、それぞれの学生の興味関心を高めるような教材を取り入れている。それぞれの学生の専門分野について今日的な話題にあふれた素材を新聞、雑誌、メディア等から取り入れ、活用している。</p> <p>アクティブ・ラーニングの要素も使い（感染予防のため、時間を区切り）、友達との学び合いの時間を取り入れた。時には同じ間違いをすることで自分と友人の弱点を知り、新たな学びにつながったという学生が増えた。</p> <p>&lt;子育て支援演習&gt;</p> <p>子育て支援に様々な形でかかわる方々にゲストスピーカーとして来ていただいているため、事前にタブレットで資料を配布することで、学生の学びを深めることができるようにしている。また、講義を受けた学生の声を速やかにゲストスピーカーに届けられるよう、タブレットを活用した授業展開をしている。2021年度は、子育て支援の現場にSDG'sの取り組みを取り入れて方にお越しいただき、実践的な経験をすることができるよう工夫した。</p>

教育（つづき）		
2021年4月～2022年3月（つづき）		
授業 （つづき）	授業改善のための取組	<p>これまでも WebClass を活用した授業展開を工夫しているが、さらに毎回の授業の振り返りを学生自身が入力し、総括の授業の際に一枚の用紙に印刷し、自身に身に付いた力を可視化する（OPP）資料作成にも取り組んだ。これを行うことで、学生自身が授業のねらいを理解し、どこまで自身の学力が身に付いたかを実感することができた。</p> <p>また、引き続き WebClass のアンケート機能を利用し、問題演習の際、学生の選択肢をグラフで提示、リアルタイムで変化する回答を速報することで学生が楽しみながら学びを深めることができた。自分と同じように間違った回答をする学生がいること、そしてすぐに修正をすることで学習効果の向上を図ることができた。</p> <p>留学生や他学部の学生と交流する場が激減し、英語を話す機会や友達作りの機会が奪われた学生に対し、オンライン交流会やコンテスト等の参加を促した。国際交流センターが発行するニュースレターを積極的に学生に紹介し、新たなチャレンジに参加するきっかけをつくった。</p>
ゼミ	ゼミ活動 （卒業演習） （修了研究）	<p>学生自身が自ら課題を見つけ、探求したいと考えるテーマで研究を進められるよう支援している。学生の自主性を重んじることを大切にゼミ活動を行っている。自ら興味のあるテーマを見つけるために、様々な経験ができるような活動を多く計画し、それぞれの研究や活動の課題、実習での学びを発表する場を多く設け、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を上げているための工夫をしている。</p> <p>また、国際交流活動にも力を入れ、学部、学科を超えた交流や留学生との交流、イベントでの様々な日本文化の紹介に努めている。2021年度は新型コロナ対策のため、大勢が参加するイベントを実施することはできなかったが、コロナ禍であっても、学生同士の交流を途絶えさせてはいけないという考えのもと、栄養科鈴木ゼミと合同で iCLA 言語学習センターでの茶道を体験するイベントに参加し、留学生らと交流した。</p>

教育 (つづき)	
2021年4月～2022年3月 (つづき)	
ゼミ (つづき)	<p>卒業レポート・ 修了研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本における韓国文化の広がり</li> <li>・うんちはどうしてくさいんだ? –消化のプロセサー</li> <li>・「忍たま乱太郎」に込められたメッセージ</li> <li>・古典文学にみる楊貴妃の姿 –能楽作品に学ぶ–</li> <li>・胎内記憶について –胎内記憶が母子関係に与える影響–</li> <li>・子どもの遊びの変化</li> <li>・早期英語教育についての一考察 –効果的な開始年齢を考える–</li> <li>・ひとり親家庭の現状とそのイメージ –保育者ができる支援を探る–</li> <li>・日本の英語教育が目指すべき方向性</li> <li>・LGBTQ について –世界三大宗教の考えを比べて–</li> <li>・男女の性認識と保育者の関わり方 –男の子はブルーで格好よく、女の子はピンクで可愛くって誰が決めたの?–</li> <li>・子どもの健康と片頭痛</li> <li>・地球温暖化の現状 –私たちに変えられる意識–</li> <li>・コロナ禍の保育現場についての一考察</li> </ul>
課外活動	<p>学友会顧問として、顧問会議の運営や執行部会議、学友会例会の運営サポートを行っている。4月の新入生歓迎会の企画・運営やクラブ勧誘ポスター掲示(2021年度はWebClass内)、を主導し、新規クラブ立ち上げの支援などにも積極的にかかわっている。学友会関連の書類(部員名簿、年間計画等)のリニューアルを行い、コロナ対策のための活動申請書類のフォーマットを作成した。</p> <p>短期大学芸能部顧問として学生の音楽活動を支援している。学部と合同で行う活動が多いので、短大生と学部生の橋渡しの役割も担っている。また、クラブ紹介等のイベントで部が所有する音楽機材を提供することで学友会の活動をサポートしている。</p> <p>演劇部門の顧問兼コーチとして、学生の演技指導も行っている。2021年度は、食育イベントや子育て支援センターで朗読劇を行い、好評を得た。</p> <p>古典芸能部顧問として、伝統芸能を学ぶ学生の支援にも力を入れている。留学生と交流する機会の少ない短大生に、古典芸能を通して留学生と関わる機会を多く設けている。</p>

教育 (つづき)			
2022年3月以前			
主な教育業績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度 「山梨の食材で、寒さに負けないからだづくり」において、小学生を対象とした朗読劇「はだかの王さま」を上演した。</li> <li>・2021年度 アルテア子ども館にて、未就学児を対象としたクリスマス朗読劇「くるみわり人形」を上演した。</li> <li>・2020年度 卒業演習Ⅱの一環として、ゼミ生がクリスマス・トリップという異文化紹介イベントを実施した。</li> <li>・2019年度 卒業演習Ⅰでゼミ生が学院小学校トワイライトスクールにおいて朗読会を行った。</li> <li>・2019年度 卒業演習Ⅰでゼミ生が iCLA 言語学習センター国際交流イベントにおいて日本文化紹介「着物の文化体験講座」と「折り紙体験講座」を行った。また、食物栄養科の日本食紹介のサポートを行った。</li> <li>・2017年度 卒業演習Ⅱでゼミ生が留学生に向けた日本昔話の人形劇を上演した。</li> <li>・2017年度 卒業演習Ⅰでゼミ生が総合図書館において幼稚園児に向けた絵本の読み聞かせイベントを行った。</li> <li>・2006年度～2016年度 保育科オペレッタ上演の脚本、演出指導を行った。2013年度には、舞台制作の様子がテレビ局の取材を受け、放送された。</li> </ul>		
	研究		
	2021年4月～2022年3月		
	タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
	(学術論文) 英語を「聞く力」「話す力」の向上を目指した授業実践(第2報)ー英語特有の発音「lとrの違い」に注目してー (単著)	2022年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第42巻
	(学術論文) コロナ禍における子ども食堂の課題ー文献調査から見えてくる状況と問題点ー (共著)	2022年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第42巻

研究 (つづき)		
2021年3月以前 (主なもの)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) 小学校英語における「聞く」・「話す」ことから「読む」・「書く」ことへの展開 －複数の領域をつなげる“コミュニケーション”に注目して－ (単著)	2021年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第41巻
(学術論文) 英語を「聞く力」「話す力」の向上を目指した授業実践(第1報)－英語特有の発音“th[θ]”獲得の試み－ (単著)	2021年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第41巻
(学術論文) 小学校の英語教育に関する教育方法論的考察－A小学校の授業観察と教諭インタビューから－ (共著)	2021年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第41巻
(学術論文) テレビ番組を活用した英語授業の展開 第2報 －食育番組をリスニング素材として使用した授業実践をもとに－ (単著)	2019年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第39巻
(学術論文) テレビ番組を活用した英語授業の展開 第1報 －料理番組をリスニング素材として使用した授業実践をもとに－ (単著)	2018年2月	山梨学院短期大学研究紀要 第38巻
(その他：研究発表) 観客としての子どもの反応についての一考察 (単著)	2016年5月	日本保育学会第69回大会
(その他：研究発表) 子どものための舞台制作－脚本作りを通じた学び－ (単著)	2012年5月	日本保育学会第65回大会
(その他：翻訳) 「日本料理と山梨県の郷土料理」 (単著)	2010年3月	山梨学院短期大学食物栄養科

社会貢献
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等
2021年4月～2022年3月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・山梨県子どもの夏休み期間の生活リズム改善作戦ー県産食材を使った食育と食支援による地域活性化ー（地域連携事業支援プロジェクト）に参加（2020～現在に至る）</li> <li>・FM甲府子育て支援番組ディレクター（1997～現在に至る）</li> <li>・大学コンソーシアムやまなし主催やまなし留学生スピーチコンテスト実行委員（2011年度～現在に至る）</li> <li>・山梨学院生涯学習センター主催（2021年度より図書館主催へ）日本文化ワークショップコーディネーター （2018年度～現在に至る）</li> <li>・山梨学院 ICC（Intercultural Center）評議委員（2017年度～現在に至る）</li> <li>・FM甲府生涯学習の時間 聞き手（2009～2020）</li> <li>・山梨学院生涯学習センター主催ワイン講座コーディネーター（2011年度～2020）</li> <li>・山梨学院生涯学習センター主催英語ワークショップコーディネーター（2011年度～2020）</li> <li>・FM甲府ラジオ番組「生涯学習の時間」聞き手（2009年度～2020）</li> <li>・山梨学院生涯学習センター紀要編集委員（2015～2020）</li> <li>・山梨学院生涯学習センター・山梨学院国際交流センター主催英語スピーチコンテスト審査員 （2010～2020）</li> </ul>
2021年3月以前（主なもの）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学コンソーシアムやまなし主催「山梨県大学ガイダンスセミナー」実施委員 （2017年度～2019年度）</li> <li>・大学コンソーシアムやまなし主催「学生イニシアティブ事業」審査員（2016年度～2019年度）</li> <li>・山梨学院生涯学習センター主催「やまなし学研究」コーディネーター（2018年度）</li> <li>・山梨学院大学文化交流センター・山梨学院生涯学習センター主催「日本語スピーチコンテスト」 審査員（2016年度）</li> <li>・大学コンソーシアムやまなし・山梨学院生涯学習センター主催「県民コミュニティーカレッジ」 コーディネーター（2013年度）</li> </ul>
受賞 ※個人、所属団体
<p>山梨学院スチューデントズ・オブ・ザ・イヤー賞社会活動部門受賞（竹中ゼミナール）（2020年）</p> <p>山梨学院学生チャレンジ制度採択（鈴木・竹中ゼミナール有志）（2019年）</p> <p>農林水産省 第3回食育活動表彰「教育関係者・事業者部門消費安全局長賞（2019年）</p> <p>山梨学院スチューデントズ・オブ・ザ・イヤー賞社会活動部門受賞（竹中ゼミナール）（2018年）</p>